

第3回 東海村（仮称）村松地区周辺地域活性化計画策定検討委員会

開催日時	平成29年2月10日（金） 10:00～正午	場 所	東海村役場 議会棟2階201・202 委員会室
出席者	委員／◎小原委員，○井坂委員，久賀委員，川亦委員，坪委員，安尾委員，荒木田委員， 原委員，川崎（敏）委員，宇野澤委員，藤田委員，川崎（道）委員 事務局／村長公室 企画経営課 関田課長，高橋課長補佐，秋山係長，照沼主事 建設農政部 都市整備課 庄司課長，照沼主事，大内技師 欠 席／荒木田委員，鈴木（千）委員 <div style="text-align: right;">（◎：委員長，○：副委員長）</div>		

○当日の活動・協議内容

1 開会（企画経営課関田課長）

2 小原委員長あいさつ

本日は、いよいよ、村松地区周辺地域のコンセプトを決定していくこととなります。皆様には一度「東海村」を離れていただき、「村松地区周辺地域」というスケールで、そこでの「にぎわい」を創出することを意識していただきたいと思います。より多くの人を呼ぶとなると、どうしても観光活性化のようなイメージとなってしまいますが、この会議では、観光のみに捉われず、広く「にぎわい」という観点から会議を進めさせていただきます。「にぎわい」を創出し、村内外からより多くの人が集う。そして、それによって、かつては一種の中心性を持っていた村松地区周辺地域が新たに・再びにぎわい、これまで以上に活性化するためのコンセプトを創り上げていただきたいと思います。「東海村」だけでなく、「茨城県」の他の地域にはあまりみられないような、『「～で～な」魅力のある村松地区周辺地域』を意識していただきたい。事前に配布された資料の「参考2」を拝見しますと、ここには様々な資源があることが分かります。伝統的・現代的な資源がたくさんあるということなので、短いフレーズに限らず、「～で～な」魅力のある、『村松地区周辺地域』を表していただきたい。「魅力」というのは、にぎわいを取り戻す意味があります。そこに住まわれる方、そこに興味を持っていただき将来的にそこに集っていただける、さらには、住みたいと思っただけのようなコンセプトの創出を検討していただきますよう、よろしく申し上げます。

3 議事（進行：小原委員長）

議題（1）村松地区（全体）のにぎわいづくりについて

===資料及び参考1，2について説明（企画経営課 照沼主事）===

※質疑なし

※以降，A・Bグループに分かれ，グループワークを開始

（議論テーマ）

東海村（仮称）村松地区周辺地域活性化計画のコンセプトについて

Aグループ

それでは、考えてきていただいたコンセプトについて発表をお願いします。（進行：秋山係長）

<川亦委員>

- ひとことと言うなら『温故知新』だと思う。
- 「古いもの」や「新しいもの」、「変わっていくもの」を全て受け入れて、活用していきける地域にしていきたいと思っている。
- 全ての人が何かに特化しない、変化に対応する柔軟性を持ち合わせた、みんなが集える（村内外問わず、多くの人が集まれる）楽しいところになってほしいという思っている。
- やること、出来ることは、一つずつ着々と行っていくが、全てが「つながる」地域にしていきたいと思っている。地域的にもつながっている、それぞれの場所もつながっている、人と人もつながっている、人の思いもつながっているということが大事だと思っている。
- 歴史的な資源や深い歴史がある地域であり、古いものを大切にしていくことは当然であるが、新しいものや変わっていくものも受け入れながら活性化を目指していく中で、地元の方々だけではなく、村外の方やさまざまな世代・立場の方々を受け入れられる柔軟性を持ち合わせた地域にしたいということである。古いものや新しいもの等がつながるといふ思いもあり『温故知新』というキーワードを考えた。

<川崎道委員>

- 人が集まる、活力がある地域を作っていくためには「魅力」が必要である。しかしながら、魅力があっても、宣伝広報ということも大切になってくる。
- ひたちなか海浜公園の集客力はとてもすごいと感じている。全ては、宣伝が上手くいったのだと感じている。
- この地域については、村松虚空蔵堂や大神宮、真崎城跡、古墳群、阿漕ヶ浦といった深い歴史がある資源を持ち合わせている。一番大切にしなければならないものだと思っている。
- また、阿漕ヶ浦公園の桜並木や村松虚空蔵堂や大神宮周辺の紅葉を名所化していければ、さらに多くの人が集まると考えている。さらに、八間道路も白砂青松を取り戻すための整備等を行ってほしいとも思っている。
- このようなことを含めて『歴史と景観の再構築・再発見』という言葉の思い浮かべた。
- この地域の魅力である「歴史的資源」と「景観」を活かしたにぎわいを創出し、地元の方々も、それらの魅力を再発見できるような地区を目指していきたいという思いである。

<藤田委員>

- 「行ってみたい、見てみたい、知りたい、さらにはまた来たい」と思える地域づくり

を考えることから始まると思う。科学的なアトラクションや独創的な芸術作品等が点在しているというような事例もある。

- この地域では、歴史的資源がある、さまざまな自然あふれる景観が優れている、さらには、最先端の科学に触れることができるといった特色があると思う。これら3つ(歴史・景観・科学)をどのようにつなげるかが重要だと思う。
- そのような中で、『^{いにしえ}古から続く歴史と景観、未来につながる(未来を感じる)科学』という言葉が思いついた。
- ^{いにしえ}古 = 太古から続くもの(大神宮や村松虚空蔵堂などの歴史的な資源)、これらが始まり(スタート)であり、先に続くものは最先端の科学、そこから未来を感じられる、また未来に触れることができるといったイメージから先程の言葉が思い浮かんだ。
- この地域を見たときに、歴史、自然・景観が豊かであり、またJ-PARCをはじめとした最先端の科学を感じられる施設もある。これらの歴史・自然・科学を地域の資源として、どのようにつなげていくかという仕組みづくりが必要である中で、「行ってみたい、見てみたい、さらにはまた来たい」と思える地域づくりをしていくことが大切だと思っている。
- 網羅的に考えてしまったが、仕組みづくりの中では、より具体的に「歴史とは何か」や「科学とは何か」などを今後は考えていく必要もあると思う。

<井坂委員>

- この地域は、大神宮や村松虚空蔵堂、古墳、阿漕ヶ浦、砂浜、自然、J-PARCをはじめとした科学の拠点施設など、さまざまな資源が点在している中、何が共通したものなのかをまず最初に考えた。
- 歴史を感じられる、科学に触れられるということなどから「過去と現在、未来と夢」ということをまず思い浮かべた。
- 「過去・現在・未来」がつながり、「夢」が広がっていくということが、この地域がもつ可能性だと思っている。そして、「つながり」や「広がり」に共通しているものは、『空(そら)』ではないかと考えた。
- 『空』には、さまざまな資源がもっている「空間」という考えもある。
- そのようなことから、『大空の〇〇』『大空の郷(さと)』という言葉が思い浮かべた。
- この『大空』には、さまざまな「広がり」や未来への「つながり」をイメージできるものになっていくのではないかと考えている。「大空が広がるように」「大空がつながるように」この地域が明るいイメージで盛り上がっていかねばならないと思っている。

<安尾委員>

- 4つのエリアをつなげたいが、なかなかつながりにくい状況もある。4つのエリアには、それぞれの資源や魅力が詰まっているということも確かである。
- そのような中で、それぞれのエリアの魅力などを活かしつつ、この地域(村松周辺地域)を全体として「テーマパーク」的に考えていくことが良いのではないかと考えた。

- 全体を「テーマパーク」として考えていく中で、一番の参考は「ディズニーランド」ではないかと思っている。「楽しめる場所、また来たいと思われる場所」にしていくことは前提としてあり、そこで働く人たちも相応の対応やクオリティーを持ち合わせている。「地域づくり」は「人づくり」が大切だということがあるように、この地域全体が、このような考えを持って「にぎわい」や「活性化」に向けた取り組みをしていければと考えている。
- もう一つの要素としては、通過されるだけの地域ではなく、立ち寄ってもらえる地域や寄り道したくなる地域を作り上げていくことが大切だと思っている。
- 4つのエリアが、それぞれの資源や魅力を活かしながら「にぎわい」作りなどの取り組みを実施されていて、それらは概念的に全てがつながっている、連動しているようになることで、次はあそこに行ってみようなどという考えにつながっていくのではないかと考えている。
- 寄り道をしてもらって、さらにまた来てもらう、また来たいと思ってもらうためには、「おもてなし」的な取り組みなども重要になり、その「おもてなし」的な考え方が広がっていくことが、この地域の活性化につながるのではないかと思う。
- 寄り道から「交流」が生まれ、その交流から「住んでみたい」「働いてみたい」につながり、それぞれが連動することで「活性化やにぎわい」につながっていくのだと思う。

<原委員>

- 村松地区周辺という範囲はとても広いし、さまざまな資源が点在している。そのようなことから、4つのエリアを一つのコンセプトで考えていくのは難しいと思っている。
- そのようなことから、前に出た意見のように、地区全体を「ディズニーランド」や「テーマパーク」的に考えることで、4つのエリアが、それぞれのコンセプトやテーマを基に、開発や発展的な整備が行われ、それぞれが独自のカラーで活性化されていくことで、最終的に全てがつながるといったイメージで検討していくことが一番良いのではないかと考えている。
- 言葉で言い表すのが難しいが、大切なのは『行ってみたい！住んでみたい！働いてみたい！』と思われる地域にしていくことだと思う。
- 「行ってみたい＝観光、歴史と科学、阿漕ヶ浦公園、海など」「住んでみたい＝子育てがしやすい環境を整える、住環境を整えるなど」「働いてみたい＝商業の発展、店舗が充実している、働ける環境が整っているなど」の考えを基本に、それぞれのエリアがそれぞれの特性を活かして活性化への取り組みを行っていく中で、実は全てがつながっているというように考えていけたらと思っている。
- 実現に向けて、一番難しいものは、ハード整備をどのように行っていくかだと思っている。概念的・考え方がつながっていても、物理的・地理的につながっていなければ、ただの単体になってしまう。4つのエリアを動線的につなげるためのハード整備は欠かせないものだと思っている。
- 人の流れがつながっている、人の流れが交わっているというような動線をいかに確保して、整備していくかという検討もしていきたいと思っている。最終的に4つのエリアを結ぶハード的な整備を考えていきたいと思っている。

以下、グループ内での意見交換

- さまざまな特徴がある資源を持ち合わせた4つのエリア全てに通じる言葉として『行ってみたい、住んでみたい、働いてみたい』が良いのではないかと思う。
- 最終的にどこに向かっていきたいかを考えたときに、この村松地区周辺が『行ってみたい、住んでみたい、働いてみたい』場所になることで、活性化やにぎわいが生まれてくるのだと思う。
- 「過去・現在・未来」のつながりと「夢」が広がっていく思いを込めた『大空の〇〇』や『大空の郷（さと）』という言葉盛り込んでいくことも良いと思う。
- より明るいイメージ、より広がりを持てるイメージ、よりつながっていくイメージというものを考えていく中で、『行ってみたい、住んでみたい、働いてみたい“大空の郷”村松地区』という言葉はどうだろうか。
- 「村松」という名称は、もともと「村松山」の山号からきている。村松地区の基礎は、そこにあるということをおぼろげに忘れてはいけないと思う。
- ⇒ 一つの言葉として『行ってみたい、住んでみたい、働いてみたい“大空の郷”村松地区』が案としてまとまってきている中で、今後、この言葉を基により具体的な取り組みを検討してことになると思う。いろいろな話を伺っている中で、この地区にあるさまざまな資源の捉え方については、共通していると感じた。それらの資源の活用方法はそれぞれの考え方があったと思うが、歴史や自然、科学など、共通する資源を活用して活性化やにぎわいを創出していくという部分は統一的な考え方であると思う。
- ⇒ そうした中で、みなさんが考える（考えてきた、思い描いてきた）イメージは、『行ってみたい、住んでみたい、働いてみたい“大空の郷”村松地区』という言葉の概念に含まれているかどうかを確認していきたい。
- “大空の郷”という言葉が、若干ぼんやりしてしまう雰囲気を感じてしまう。サブタイトル的に使用していくことも一つの手法である。
- “大空の郷”という言葉の将来的な考えとしては、「村松地区周辺地域＝“大空の郷”」となつてほしいというような思いが込められている。さまざまな資源があるこの地区を凝縮して表現できる言葉として“大空の郷”があり、将来的に村松地区の愛称的な役割を果たしてほしいと考えている。
- 地区（地域）を包括して表現できる言葉、この委員会の思いが込められた言葉としてサブタイトルではなく使用していきたいと思う。
- ⇒ Aグループとしては、「行ってみたい、住んでみたい、働いてみたい」という全てを網羅されているキーワードに加え、古を活かしながらも、未来につながる明るいイメージとなる「大空」を活かし、「行ってみたい、住んでみたい、働いてみたい“大空の郷”村松地区」をコンセプト案としていく。考え方としては、4つのエリアの点と点をつなげたいということがある。4つのエリアをまとめたテーマパークのように考え、各エリアが、それぞれの特性を活かした取り組みを進めることが、最終的には“大空の郷”村松地区の活性化に繋がるということも含まれているということで、Aグループの意見としていきたい。

Bグループ

それでは、考えてきていただいたコンセプトについて発表をお願いします。(進行：高橋課長補佐)

< 坪委員 >

- これから創るものも含めて、他から人が来てもつながりが見える、結局ここが重要だ。創ったものにつながれば。外から見ても魅力になるのではないか。
- わくわくドキドキの種が「歴史」や「自然」や「科学」になるかと思う。一番大切なのは、「歴史」で、虚空蔵堂や大神宮だ。それをつなげるということが大切だ。たとえば、「歴史」であれば、「歴史を感じる」とつながることになる。一見、「自然」と見なすもの、例えば、従来ある地質地形の成り立ちを「歴史」と捉えることはできる。村の成立等、「見えない資源の活用」がわくわくドキドキの種になる。
- 「自然」はふれあうことがでつながることができる。四季の移り変わりや素晴らしい景観はもちろん、現在は（景観としては）見えづらい海を材料にしてはどうだろうか。
- 「科学」については、東海村の特に村松周辺エリアにおいて一番チャーミングなポイントだ。今まで、近づきたいイメージがあったが、そこを「ふれあい・学びたい・知りたい」と意識を転換すれば、科学に関するつながりができる。
- 地域にいきなり道の駅を造っても、(地域住民からすると)「勝手にやればい」となってしまうので、地域(特に高齢者)が安らげることが大事だ。地域が楽しんで、自慢できるようになっていくといい。
- 観光は既存のものを眺めてもいいが、斬新さや新鮮さが必要なのではないか。
- 「見えないもの」を「見える化する」ことで財産が増えると思う。「歴史・科学・自然・観光・地域」をより斬新に見せる。現実拡張技術、そのためのデバイス・テクニックがあるので、活用してはどうか。
- 東海村には「まるごと博物館」という取組みがある。これには「村内のいろいろな史跡等を活かしてわくわく・ドキドキを感じあらゆる世代が集い学びふれあう」という考え方があるが、村松にも通ずるのではないだろうか。村ならではの魅力は、キーワードで表すと「歴史」と「科学」だ。どこでと言え、当然、村松地区となる。具体的に何か、と言われたら、「ふれあう」「創る」「楽しむ」「感じる」「つなぐ」、こういったものでわくわくドキドキを感じる。標語としては「歴史と科学 de わくわくドキドキ」「村松の歴史と科学がわくわくドキドキ」「村松で歴史とと科学のわくわくドキドキ見つけよう」等を考えた。

< 久賀委員 >

- この地域は「歴史」と「自然」と「科学」が全てある。この特徴は3つが全て含まれている。それをつなげていこうということに賛同する。言葉選びはみなさんのご意見を参考にしたい。

< 川崎敏委員 >

- みんなが楽しめるような要素が必要だ。村松には、村の基幹産業である原子力と歩んだ歴史がある。それを基本に、みんなが歴史を楽しめるような施設を造ってもらいたい。私は道の駅を一番推したい。地域の人を訪れることができ、村松地区に住んでいることに誇りを持てる、自慢できるものを造ってもらいたい。
 - 土日限定かもしれないが、常陸太田市の道の駅には既存の入店しているお店+αの店が出店できる場所を創ったという意味（価値）もある。
- ⇒ 国道 245 号の拡幅（という機会）を使わない手はない。常陸大宮市は太子町までの通過道路で、常陸太田市の場合は国道 349 号沿い（に道の駅がある）。東海村にも「にじのなか」はあるが、（国道からは）奥まったところにあり、（外部から来る人は）探して来なければいけない。国道拡幅を有効活用した方がいい。また、海浜公園もはじめは入場者数は少なかった。PR をすれば効果はある。テレビを見ると、田舎で話題になっているところもある。知ってもらうためのきっかけ作りの手法はいろいろあるのではないか。（久賀委員）
- 道の駅とは、その周辺には何もなため、地域のための利便性が備わっていることが基本にあり、地域活性化に貢献している側面があるかと思う。阿漕ヶ浦周辺には公園があり、科学があり、文化的資産がある。これだけのものを持ちながら、何もしてこなかったのは悲しいことだ。他の道の駅を見ても、これだけの（地域）資源があるところはない。ここに道の駅を造らない手はないのではないか。偕楽園の観梅や、千波湖と同じぐらいのものが村松にはあると思う。そこにみんなが集まる場所を創り、地域の人も集えればいい。
- ⇒ 阿漕ヶ浦公園は桜で有名なので、周辺全部を桜並木にして、ジョギングや散歩で気軽に来れるようにすれば、何十年後かにはすばらしい景色になる。（久賀委員）

<宇野澤委員>

- 村松の古いものと道の駅等の新しいものを訪ねることをイメージして、私からは「温故知新を楽しもう」というコンセプトを提案する。

<鈴木さ委員>

- みなさんのご意見にあった、「温故知新」や「わくわくドキドキのつながり」が素敵だと感じていた。キーワードとして「温故知新」と「体験」があり、それをつなげたようなエリアにして、そこで様々なことができるようにしたらいかがだろうか。言葉にするならば「体験」というキーワードを入れたいと思う。
- 「体験」とはどのようなことかという、「道の駅」ならば、食物を「食べる」「作る」「収穫する」体験が挙げられる。照沼地区では子どもたちが田植えを体験できる取組みを地域と一緒にやっている。そういった（体験の）窓口になっていくと良いかと思う。
- 大空マルシェが成功している。手作りマーケットをあな場所を開くことは非常にユニークだ。もっと膨らませていくと、ものづくりを体験できる場になるかもしれない。茨城県には工芸品があまりないので、それを体験するのは難しいかもしれないが、道の駅で県の窓口となれば、県の全エリアの産業や文化を体験できるエリアになり得る。将来的にそういった場所になるといいと思う。

- 加えて、あの地域に道の駅や駐車場を造った場合、30分程度で回れるようなコンパクトなエリア設計をしたらどうか。そこに寄ったら、歩いて様々な体験ができるエリアとして、歩いて回れる時間や距離感をある程度定めておくといいかと思う。
- ⇒ 今のご意見に賛成だ。「温故知新」は言葉を変えれば、「歴史を楽しむ」ことになるかと思う。「体験すること」とは「わくわくドキドキ」をどのような形で探すかだ。道の駅でそういったことを行うことに強く賛成する。真崎古墳群は現在整備中だが、あそこで細浦の景観が見え、また、火起こし等の古代生活体験をコミセンと一緒にやってもいい。コースを選んで様々な異なる体験ができる。いろいろな場所でそういったことができる、地域がつながるかと思う。(坏委員)
- 「ハコだけ」や「見せるだけ」ではなく、「共有」してもらおう。「体験」にはそういった意味合いが含まれている。

以下、グループ内での意見交換

- 千波湖には、夜でもランニングする人がいる。阿漕ヶ浦も、神社や桜があり、開発すれば同様のイメージとなるのではないか。1～2年では全てを実現できないが、東海村には千波湖にはない、科学の要素がある。(川崎敏委員)
- 銀座の茨城マルシェでは限られたものしか売っていない。(道の駅を造るならば)東海村だけでなく、茨城県全体の特産物を売るぐらいの、茨城県の窓口ぐらいの大きな気持ちが必要ではないか。(川崎敏委員)
- 十三詣りは船で向渚を渡って海岸から来た人もいるほど、多くの人 came。(そういった歴史ある)白砂青松をきれいにし、海が見えるようにして、裏側からも大神宮・虚空蔵堂に行けるようにしてはどうか。(川崎敏委員)
- ⇒ 今はよく見えない海の活用については仰るとおりだ。また、様々な資源があるが、「どこで」「何が」できるか分かるところがあるといいのではないかと思う。今はそのシステムがない。(坏委員)
- ⇒ (一般的な)道の駅も、地域のものしか見ていない。常陸太田市であれば、常陸太田だけのもの。他のものは買いたくてもない。(川崎敏委員)
- ⇒ 主では東海村のものだが、近隣市町村のなかなか購入できないものもPRすればいいのではないか。茨城県の人気度が低いのも、名所など一つ一つが離れて観光コースがとれないからだろう。今まで話したような、地域をつなげることをすれば、コンパクトでも十分地域を楽しんでもらえるだろう。(久賀委員)
- そろそろまとめに入りたい。みなさんに共通するのは、「つながり」や「自然」「科学」「歴史」「温故知新」「体験」「楽しさ」が挙げられる。(進行：高橋課長補佐)
- ⇒ 「歴史」と「科学」であれば、(一般的な)共通用語だが、外から見ても、東海村に行けば何があると分かるようなワードがあるとわかりやすいのでは。(坏委員)
- ⇒ 今回のコンセプトは、委員会の中で取組みの方向性がぶれないためのコンセプトとなる。(進行：高橋課長補佐)
- ⇒ 提案だが、今まで出た意見を単純に並べてみてはいかがか。「温故知新『自然』『科学』『歴史』を体験できる・楽しめる・つながる村松地区」といった具合だ。(事務局：照沼か主事)

⇒ 委員会の内部のコンセプトであれば、長くてもいいのではないか。(坏委員)

- 「温故知新『自然』『科学』『歴史』を体験できる・楽しめるつながる村松地区」という形でまとめたが、よろしいか。(進行：高橋課長補佐)

⇒ 了承。(一同)

グループワークのまとめ

< Aグループ／報告者：秋山係長 >

委員のみなさんからはいろいろなご意見をいただいたところだが、「歴史」「自然」「景観」「科学」「観光」等の地域資源の捉え方は共通していた。資源を地域活性化にどのようにつなげていくかについて、キーワードとして、「古」を活かしながらも、未来につながっていく明るいイメージが必要だという議論になった。それを表現する言葉として、「大空」というキーワードが浮かび上がった。「大空」には、大神宮、虚空蔵堂の文字はもちろん、果てなく未来に向けて広がる明るい空のイメージがある。また、地域活性化を考えたとき、外からの人もターゲットになるが、やはり、そこに住んでいる人も大切にしなければいけない。そういったことを端的に表すコンセプトとして「行ってみたい、住んでみたい、働いてみたい」という言葉が出た。「行ってみたい」は歴史などの観光資源に対して、「住んでみたい」は、子育てのしやすさも例としてあるが、人口減少が進む地域のため、住民が住み続けたいというところ。「働いてみたい」は、地域経済活性化の側面があり、商業店舗などで働くことができるということ。そういったことが網羅されているワードとなる。そして、古を活かしながらも、未来に繋がる明るいイメージとなる「大空」を活かし、「大空の郷」があり、「行ってみたい、住んでみたい、働いてみたい“大空の郷”村松地区」ということがAグループのコンセプト案としてまとまった。考え方として、4つのエリアの点と点をつなげたいということがある。4つのエリアをまとめたテーマパークのように考え、各エリアが、それぞれの特性を活かした取組みを進めることが最終的には“大空の郷村松地区”の活性化に繋がるというご意見をいただいた。

< Bグループ／報告者：高橋課長補佐 >

基本的なベースとなる考え方は、地域に携わるみなさんだけあって共通しており、キーワードとしては、「自然」「歴史」「科学」が出てきた。また、Bグループでは、それぞれのつながりを大切にすべきとのご意見を多くいただいた。「過去」「現在」「未来」をつなげるという意味での「温故知新」、資源として存在する「自然」「科学」「歴史」をつなげるといこと、さらに、そこに村外及び村内から人が集まることから、人とのつながりを大切にするといった中で、言葉としてまとめたのが「温故知新『自然』『科学』『歴史』を体験できる・楽しめる・つながる村松地区」だ。体験できるというのは、たとえば、農業体験のような、村内の人も村外の人もこの場所に来れば、様々な体験ができるということだ。そういったものを楽しむことができる村松地区ということで、Bグループの意見はまとまった。

<グループワーク意見の整理／小原委員長>

私の方で改めて整理させていただくと、地域資源については、「自然」「歴史」「科学」等、両グループとも共通する。また、Aグループでも「温故知新」というワードはでており、それ（温故知新）を包含して「大空」で表現した。さらに、A・Bグループとも、そこに3つの言葉が続く。Aは「行ってみたい・住んでみたい・働いてみたい」Bは、前提として「温故知新」があり、「自然・歴史・科学」に「体験できる・楽しめる・つながる」が続く。Aの「行ってみたい」にBの「体験できる・楽しめる」が対応し、「住んでみたい」に「楽しめる」や「つながる」といった安心感が対応するかと思う。このように、両グループとも（資源の）共通認識は同じだ。ただ、それぞれ異なる想いがあると思う。

ここから全体議論に移りたい。全体議論のゴールは、コンセプトを一つにまとめることだ。各発表を聞いた上で、ご意見等あれば願います。

- 私は、外部に出すためのコンセプトだと考えていたため、凝縮された、概念的なコンセプトを求められていると思い、長くなるのはいかがかと考えていた。しかし、そうではなく、委員会を進めるための共通認識のためのコンセプトなので、全て入った方がいいのではないかと。長くなってもいいだろう。（坪委員）
- ⇒ コンセプトは、今後の活性化に向けた取組みを進めるためのものなので、長くてもいいのでは、とのご意見だが、いかがか。（小原委員長）
- ⇒ Aグループでの議論は、Bグループの議論が全て出た上での結果だ。表現の長さではなく、Bの要素は全て入っているかと思う。（川亦委員）
- ⇒ Aグループの結論は、Bグループの議論の過程を経た上でのものだということが、コンセプトとして表現したときに、言葉やニュアンスは異なる。Bグループはいかがか。（小原委員長）
- ⇒ 「行ってみたい村松地区」は良いフレーズだと思った。一方で、理由は聞いたが、「住んでみたい・働いてみたい」に違和感がある。地域の問題点ではあるが、ここを活性化させるのに、（このワードは）違和感がある。（久賀委員）
- ⇒ 「大空の郷」という言葉が素敵だと思う。ただ、村内もそうだが、全国的にPRするようになったとき、「大空の郷」だけではどういったところか伝わらづらい。副題をつけるか、もしくは、最初からどういったところか分かるような言葉に絞った方がいいのではないだろうか。（鈴木さ委員）
- ⇒ このコンセプトが何年も続いたとき（を仮定して）、「大空の郷」と言えばあそこだと認知されたい。つまり、村松地区周辺を全て包含する愛称として呼ぶ。その中には、当然、注釈が必要になるが、私たちが議論する際も注釈が必要になるかと思う。そうするには、B案の「体験できる・楽しめる・つながる」という意味も噛み砕いて並べる必要がある。ただ、どこかの時点で（コンセプトが）定着する時期が来る。（A案は）それを見越した案だ。我々が一体にならないと、計画が一体で進んでいかない。Aグループの結論はあくまで一つの案だが、そうなったときに、そういったものを私たちの根底に置きつつ、イメージを膨らませ、具体案を出していくのがいいのではないかと思う。将来的に、こういうものを目指し、注釈はエリア毎やポイントで私たちが作っていくものなのだろう。それが成り立ったら、人が流れ込んでくるのではないだろうかという想像だ。（安尾

委員)

- ⇒ 「大空の郷」はキャッチフレーズだと思う。今はコンセプトの議論なので、むしろ、注釈部分がコンセプトになるのではないか。(坏委員)
- ⇒ そうすると、身動きが取りにくい。(安尾委員)
- ⇒ キャッチフレーズだと身動きがとりやすいと言うが、本当にそれで全てを表せるのだろうか。(坏委員)
- ⇒ (キャッチフレーズの)注釈となる、議論した具体的な部分を表してしまえばいい。(安尾委員)
- ⇒ つまりは、今議論すべき「コンセプト」とは、注釈の部分に当たるのではないだろうか。ここでまとめるものは、「キャッチフレーズ」と「注釈」と二つあって、(これまで議論してきた)「コンセプト」には、両方の意味が入っているが、今は注釈の部分の議論すればよいのではないだろうか。(坏委員)
- ⇒ 「キャッチフレーズ」と言っても、進むべき方向性を表すのが「コンセプト」だ。文字に表す際は、いくらでも注釈を入れられる。ただ、第三者に説明をする際に、「やりたいこと」を書くのか、「進むべき方向性」を書くのかは異なる。その方向性について、私たちは議論をするので理解できるが、私たち以外の住民に説明する際に、「そういうことか」と瞬時に理解してもらえることをイメージしている。(安尾委員)
- ⇒ ゆくゆくはそうなるといいと思うが、今は委員会が進む方向性を議論しているので、注釈部分をきちんとした方がいいかと思う。(坏委員)
- ⇒ ポイントとしては、「働いてみたい」まで踏み込むかどうかかと思う。B案は「働く」まで踏み込んでいないが、ここをコンセプトとしてどう扱うかだ。ここを入れるか入れないかは、地区の将来像を考えたときに影響があるかと思う。「働く」というイメージについてはいかがだろうか。(小原委員長)
- ⇒ “村松地区”というより、“東海村”の「むらづくり」のイメージではないだろうか。(川崎敏委員)
- ⇒ 働く場所がないと人口減少につながることは分かるが、すぐに解決するものではない。村松地区周辺は駅から離れていて、交通の便が悪い。地域には空き家や空き地があるが、借り手はいない。「住みたい」という言葉が出たが、現状としては簡単に解決しないのではないかと思うので、「住みたい」まで言及するのはいかがかと思う。(久賀委員)
- ⇒ 「働きたい」というのは、にぎわいを表す。大きな雇用口があるというイメージではなく、例えば、商店の復活や、観光に関して人を呼ぶようなもので、今までの「雇用」というイメージとは異なるという理解でよろしいか。(小原委員長)
- ⇒ それは、これからの話だ。いわゆる、「経済」をこの地域に何らかの形で作っていきたいという想いがある。それは、道の駅のような大きなもでもいいかもしれないが、例えば、参道の空き地を活用して商店を誘致するのもいいし、アート系の展開でもいい。人を呼び込む仕掛けが必要だ。雇用の意味合いも込めて、それを大まかに表したのが「働いてみたい」だ。「働いてみたい」と「住んでみたい」、「行ってみたい」はリンクする。人に限らず、物事がつながるという意味合いも含まれた提案だ。(安尾委員)
- ⇒ 地域に住んでいて感じるのは、地域資源がもっていないということだ。大神宮・虚空蔵堂(周辺)は宿場町であり門前町だが、そういった資源があるにもかかわらず、まちづ

- くりをしてこなかった。参道の一角が盛り上がりさえすればいいとは思いますが、現状、家が建っていて、これから全て造り直すのは、時間とエネルギーがものすごく必要だ。(久賀委員)
- ⇒ ゆくゆく(将来的に)はいかがだろうか。道の駅のようなものも含めての「働く」という意味があるとのことだが。(小原委員長)
- ⇒ 確かに道の駅については、雇用が生まれ、駐車場整備も含めて基礎となるかと思う。それがなければ、いくら周辺整備をしても、現状として人が集まる場所がないので、まずは、その(人が集まることができる場所の)確保をして、その後の計画を考えていけばいい。しかし、今の参道の状況を考えると、景観整備も含め、新しいものを造って雇用が生まれるとは考えにくい。(久賀委員)
- ⇒ それを踏まえ、にぎわいを取り戻すということもテーマとなっている。(小原委員長)
- ⇒ 2つの案を比較すると、A案は「行ってみたい・住んでみたい・働いてみたい」(というフレーズ)から、(外から来る人も)住んでいる人も対象としている。B案は単語だ。「自然・科学・歴史」を「体験できる・楽しめる・つながる」というのは(主な対象が)観光客に思える。村内・外、両者を対象としているのはA案かと思う。(川崎道委員)
- ⇒ 今のご意見に対して申し上げたい。例えば、真崎古墳群から細浦を眺望できるようにしたり、開拓された地形地質の成り立ちを学べたり、古墳の近く土器作りを体験したりということについては、地域(に住む人)もできる。(B案の)キーワードにはそういった二つの意味がある。観光客だけでなく、地域内の方も含まれているという話は(グループワークの中でも)させていただいた。(坪委員)
- ⇒ A案・B案を合わせた案として、「行ってみたい」をトップに持ってきて、「行ってみたい」に対して、具体的にどうやって「行ってみたい」と思わせるかと言うと、Bグループの「体験」や「楽しませる」がにつながるのだろう。では、何を体験するのかというと、「自然・科学・歴史」ということを含める。その次のステップとして、「住んでみたい」「働いてみたい」村松地区周辺地域という、大枠のコンセプトとして、サブ・メイン等順位付けををつけず、「大空の郷」を残すコンセプト案はいかがか。(小原委員長)
- ⇒ (A案は)体験する、例えば、お参りに行く等も全て入った「行ってみたい」だ。サブタイトルをつけたとしても、中身はタイトルの中で包含するものではないだろうか。委員会としてどこに向かって進めるのかと問われたとき、Aグループは未来を想像して、「住んでみたい」「働いてみたい」を表した。それを踏まえて「にぎわい」に経済活性化は外せない。「景観」「観光」等は全て「行ってみたい」「働いてみたい」に含まれる。体験等は全て入っている。(川亦委員)
- ⇒ 少子化が進み、東海村には高校や大学が少ないので、若い人がどんどん外に出てしまう。働き手があまり入ってこないことを課題とする場合、自分たちのルーツを知り、誇りに思っていないと戻ってこない。「体験できる」と聞くと、外部の人をイメージするかもしれないが、イベントとしての「体験」ではなく、そこに行くと、村内の子どもたちも歴史や科学を知ることができる場所といった意味合いもある。「行ってみたい」「住んでみたい」「働いてみたい」のきっかけは何か必要かと考えて「体験」というキーワードを出した。コンセプトについては、決まらないうちは全て含めて進めた方がいいのではないか。「行ってみたい」「住んでみたい」「働いてみたい」は大きな目標なので、そこまで到達するためにはフックが必要だ。その言葉が「大空の郷」だと抽象的なので、「体験でき

る」や「他にはないものが見ることができる」、「歴史と科学の〇〇」等の要素が必要かと思う。今の段階においては、表現が決まらなければ、つなげたままでもいいのではないか。(鈴木さ委員)

⇒ 「〇〇体験の体験」でなく、暮らすことで満足を得る「体験価値の体験」だということだ。(小原委員長)

⇒ 文化を体験するのは大切なことだ。せっかく文化財があるのに、歴史や地域の成り立ちを知る機会がないのかもしれない。昔の東海村は、松島のように、島状で低いところがたくさんあって、海が入り込んでいた歴史があるので、いろいろなところに古墳群がある。そういったことを知らないのかもしれない。歴史的な場所である村松地区を使って、子どもたちも学ぶことができると良いという発想だ。(鈴木さ委員)

⇒ ご提案の中に、並立してコンセプトを案を採用してはどうかとあったがいかがか。先人たちが築いた大きなものの上で暮らしている、外から来た人は、住むことで満足感を得ることができるという体験価値や郷土愛を改めて表に出し、地区の誇りにしていく。これまで、委員会に共通認識がなかったが、前回までに出た地域資源も共通キーワードになっていて、表現の仕方は異なるが、根底にあるものは2グループで共通するので、2案をコンセプトとして並列することについていかがか。(小原委員長)

⇒ 事務局から提案させていただきたい。2つのコンセプト案が出たが、背景は共通する。今後、4つのエリアを考えていく上でコンセプトは2つ掲げておいて、議論を進め、最終的にまとめてもいいのではないだろうか。根本は共通するので、まずは、2案をコンセプトとしてもいいのではないか。(事務局：関田課長)

⇒ 背景は共通するというで、コンセプトを並べて置いておくということによろしいか。コンセプトの時間軸の問題かと思うが、どこの部分で表現するか、若干のニュアンスの違いはある。しかし、背景は共通するので、2案を委員会の今後のコンセプトとして、これに基づきながら、今後の検討を進めていきたい。改めてみなさんからご意見はあるか。(小原委員長)

⇒ なし。(一同)

⇒ それでは、今回の2案をコンセプト案とし、今後の活性化策を検討していきたい。

議題(2) その他(事務局より)

- ・ 次回委員会：3月28日(火)午前10時から正午
(村松地区周辺における東海村の取組みについてご説明したい)
- ・ 文化デザイナー学院修了制作展：平成29年2月11日(土)から2月19日(日)まで
(全学生の修了制作の展示を水戸市泉町の文化デザイナー学院内で開催している)
- ・ 文化デザイナー学院の発表会：平成29年2月22日(火)午後2時から
(村松地区を舞台とした作品の内、選抜された学生による修了制作発表を行う)

■ 質問をよろしいか。阿漕ヶ浦グラウンドの整備状況について教えていただきたい。(井坂副委員長)

⇒ ホッケー場は平成28年度内に人工芝化等の工事が完了する予定だ。次回の委員会でも

ご説明するが、4月からは人工芝をお貸しできる状態となる。ただ、その後の工事予定もあるので、7月には貸し出しを休み、平成30年4月から（貸し出しを）再開する。

（平成29年度は、ナイター設置以外に）ホッケー場自体には手をつけないが、その周りを工事する。安全面を考慮し、全面的に園内を立入禁止し、園路の再整備をする。（事務局：庄司課長）

⇒ 宿区のスポーツ大会で毎年、阿漕ヶ浦公園の野球場を借りているが、そちらは大丈夫なのか。（久賀委員）

⇒ 野球場は大丈夫だ。（事務局：庄司課長）

■ 観光協会で毎年「さくら祭り」が開催される。さくら祭りは工事期間内に当たるのか。一般の方が祭りに訪れたときに、周遊できるコースがあるのかということを確認したい。それから、8月に阿漕ヶ浦公園で、東海まつりの花火を打ち上げている。それは可能か。（川崎敏委員）

⇒ さくら祭りは、安全に公園内に立ち入ることができるよう対策を講じる。花火大会については、今までホッケー場でご覧いただいていたが、平成29年度、その期間は工事になるので、ホッケー場での観覧はできない。ただ、東海まつりの実行委員会は会場を阿漕ヶ浦公園として進めていると聞いているので、何らかの形で観客席が設けられるかと思う。（事務局：庄司課長）

⇒ 東海村で花火が上げられる場所は消防法等で限られていて、公共の施設だと阿漕ヶ浦公園しかない。唯一の場所なのでそこはご配慮いただきたい。また、国道245号拡張によって駐車場が削られてしまうので、駐車場整備を早めに行ってほしい。もう一点、グラウンドのパス図が何度か更新されたかと思う。最終的にナイター照明がついていたが、ナイターもつくのか。（井坂副委員長）

⇒ 花火大会は、阿漕ヶ浦公園が一番相応しいと思うので、（燃えカスが）溶けないようにする等、地盤に影響がないようにすれば問題ないかと思う。ナイターについては、設置を予定している。今のところ、平成29年度にナイターの柱を建てる工事を行い、平成30年度から使用開始する予定だ。駐車場については、村としても課題だと認識している。次回委員会で、候補地について台数を含めてお示ししたい。第1回の委員会で出た、JAEAが所有する阿漕ヶ浦クラブ跡地の駐車場化についてご意見いただければとも考えている。（事務局：庄司課長）

4 閉会（関田企画経営課長）

（以上）